


第 185 回 都市懇サロン レポ ー ト	「都市構造の評価に関するハンドブックについて “人口減少に対応した都市構造の実現のために”」		
	国土交通省 都市局 都市計画課 企画専門官 筒井 祐治 氏	開 催 日	平成 26 年 10 月 28 日 (火) 18 : 00 ~ 20 : 00
講 師 プロフィール	平成 3 年 建設省入省 平成 19 年 国土交通省都市地域 整備局市街地整備 課 課長補佐 平成 22 年 岡山市都市整備局 都市・交通・公園担 当局長 平成 24 年 国土交通省都市局 都市計画課 企画専門官		
お話の概要	<p>背景 人口減少や高齢化は、市街地の低密度化を進行させ、生活サービス機能の衰退や、行政コストの増大、地球環境問題への影響などが懸念されている。そこで、コンパクトなまちづくりの推進が求められている。</p> <p>概要 ハンドブックは、コンパクトなまちづくりに向けた取り組みを支援する公共団体向けの参考図書としてとりまとめたもの。都市のコンパクトさを、生活利便性、健康・福祉、安全・安心、地域経済、行政運営、エネルギー・低炭素の6つの観点から評価。各々、評価指標を設定し、その一部は将来予測にも対応可能な指標となっている。また、全国平均値を提示し、評価、分析をサポート。</p> <p>評価のイメージ ①現況都市構造の評価により、どのような分野において課題があるのか定量的に把握。②BAU 将来都市構造を想定し、これを評価することで施策を講じない場合の課題を把握。③現況都市構造における課題や、BAU 将来都市構造の課題を踏まえ、目指すべき将来都市構造を想定し評価することでその妥当性や効果等を検証。</p>		
意見交換 の概要	<p>▼将来予測評価において、いかなる評価指標を選択するかは、住民に「何を示したいのか」による。▼現況値の算定や将来値の推計では、国土数値情報や公共団体の各部局が所有しているものなど既存データを活用するなど作業の簡素化も重要。▼国土数値情報のデータについては、予算次第などところもあるが、充実、更新の検討は可能▼将来都市構造の評価は可能だが、個別施策を評価することは困難（誘導効果の予測は不可能）。▼立地適正化計画において居住誘導区域の設定後に、区域の縮小や拡大はありうる。設定の規模については議論の余地あり。▼ハンドブックの都市規模別平均値（市街化区域の平均）は、あくまで”平均値”であり、目標値を表しているものではない。どの程度の水準を目指すことが適切か、別のものさしであわせないか検討。▼立地適正化計画は、相談窓口を設置しているので事前に相談を。</p>		
記録者の ひとこと	<p>コンパクトなまちづくりの必要性は広く認識されるようになり、ハンドブックができたことで推進が期待されるが、まだまだ手探りの部分が多いのだと思った。 ≪都市懇サロン運営部会 委員 飯田のり子≫</p>		